

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人千葉大学

1 全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念の下、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第3期中期目標期間においては、世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学として、優れた教育プログラムと最善の環境の提供による高い問題解決能力を備えたグローバル人材の育成や、先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進するとともに、特色ある研究分野を戦略的に強化することで世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に結び付く世界水準の教育研究拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、新規性・独創性を備えた研究群を戦略的に支援する「グローバルプロミネント研究基幹」や、全学の教育機能の強化を図る「国際未来教育基幹」を設置するとともに、6ターム制の導入をはじめとする学修制度改革に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「グローバルプロミネント研究基幹」を新たに設置し、国内外研究機関の外部有識者等で構成する評価・審査組織による選考を経て、今後推進する研究プロジェクト（重点推進分野：3プロジェクト、育成・強化分野：12プロジェクト）の配置を決定している。（ユニット「グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」に関する取組）
- 全学の教育機能の強化を図るため、「国際未来教育基幹」を新たに設置し、「次世代型人材育成計画」を策定するとともに、取り組むべき具体的な事項や改革の方向性、工程等を定めたアクションプランを取りまとめている。（ユニット「国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成」に関する取組）
- 学修制度改革、プログラム改革、グローバル・ネットワークの構築・展開や多様な留学プログラムの拡大等による優秀な外国人留学生の積極的受入れに取り組んでいる。（ユニット「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」に関する取組）
- 国内外の先端的研究拠点とのネットワークによる人材交流・共同研究のハブ機能を有する卓越した研究拠点の形成を目指し、カリフォルニア大学サンディエゴ校（米国）と共同して「千葉大学－UCSD国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター」を設置するとともに、金沢大学、長崎大学との3大学共同専攻「医学薬学府先進予防医学共同専攻」を設置している。（ユニット「指導的立場に立つグローバル人材を育成する卓越した大学院の形成」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営		○				

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 研究費獲得促進プログラムの創設

多様な外部研究費獲得のために必要な基礎研究費の一部を大学が3つのカテゴリに応じて支援する「研究費獲得促進プログラム」を開始している。これらの支援の結果、支援前と比較し、同プログラムにより支援した研究者の科研費等外部資金の獲得件数は1.3倍、獲得額は5.1倍に増加している。(件数: 52件→70件、金額: 約5,200万円→約2億6,400万円)

○ 寄附金獲得戦略の策定等

「寄附金獲得戦略」を策定するとともに、民間企業でキャリアを積んだ専門家をファンドレイザー（学長特命補佐（基金担当））として採用し、寄附金（千葉大学SEEDS基金）獲得のため対外折衝等を強化した結果、対前年度比約4,600万円増の約9,100万円の寄附を獲得している。また、ファンドレイザーを講師として、対外折衝上不可欠な基礎知識等の習得を目的とした「渉外対応基礎研修」を実施し、30名を超える職員が参加している。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学術研究成果の積極的な発信

大学の教育研究情報が社会に一層効果的に伝わるよう、学術成果リポジトリにおいて9万件を超えるコンテンツを公開するとともに、「千葉大学オープンアクセス方針」を策定し、在籍の研究者による学術研究成果のオープンアクセス化を推進している。平成28年度は、米国の非営利団体CHORと国立研究開発法人科学技術振興機構による学術論文のオープンアクセス拡大に向けた国際的な試行プロジェクトに機関リポジトリを運用する立場から参加するなど、学術研究成果の発信の強化を図っている。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

（理由） 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

21 千葉大学

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 情報セキュリティインシデント対応体制の充実・強化

サイバーセキュリティインシデントの早期発見・早期対応により被害を最小化することを目的として、伊藤忠商事とクロスアポイントメント協定を締結し、上級サイバーセキュリティ分析官を情報危機対策チーム（C-csirt）に採用するとともに、インシデントへの対応能力の向上のため、情報企画課、附属病院職員等からなるC-csirtコアメンバー向け研修や各部局に配置されたC-csirt部局メンバー向け研修を実施し、取組の強化を図っている。

○ セキュリティバグハンティングコンテストの開催

ウェブサイトやネットワーク上でセキュリティに関わるバグや脆弱性等の問題点を発見することを奨励するセキュリティバグ報告奨励制度を新たに設け、セキュリティバグハンティングコンテストを開催している。学生63名が参加し計26本のレポートが提出され、実際に学内ウェブサイトが抱えていた脆弱性が発見されるなど、学生の情報セキュリティに関する意識の向上に加えて、学内セキュリティの維持向上につながっている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 6ターム制の導入

留学、インターンシップやボランティア等、学生の多様な社会体験の機会を確保し、自主的で主体的な学びを促すため、6ターム制を全学的に導入するとともに、シラバスの英語化を推進するなど、学生の留学促進や外国人留学生の受入れのための環境整備を進めている。単位取得を伴う留学をした学生数は前年度から43名増加して657名に、外国人留学生は前年度から217名増加して1,614名となり、着実に増加している。

○ グローバルプロミネント研究基幹による研究の戦略的強化

研究の核となる新規性・独創性を備えた多様で発展性のある研究群を長期間に渡り継続的に創出することを目的とする「グローバルプロミネント研究基幹」による戦略的な資源配分を受けている研究部門等において、喘息などの重症アレルギー疾患のメカニズム解明や、テラヘルツ帯における高強度光渦を発生させるなどの成果をあげている。

共同利用・共同研究拠点

○ 東アジア域の汚染レベルを明らかにした大気環境問題に関する研究の推進

環境リモートセンシング研究センターでは、汚染レベルの変化要因に係る研究を推進するため、欧米の大気環境衛星センサーのデータを解析し、2015年の東アジア域における大気中の二酸化窒素による汚染レベルが5年前のレベルに回復・改善していることを世界で初めて明らかにしている。

○ 薬剤耐性研究の推進

真菌医学研究センターでは、世界中で増大する耐性菌を克服するため、国内外の研究グループとの共同研究を行っており、重篤な肺感染症を引き起こす病原性の真菌(カビ)が持つ薬剤耐性の制御に寄与する新しい因子を発見し、その制御因子の遺伝子変異により当該真菌の薬剤耐性メカニズムを無効化できることを世界で初めて実証している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 柔軟性のある臨床研修プログラムの新設

平成28年度千葉大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムより、附属病院と協力病院それぞれにおける研修時期・期間を柔軟に選択可能な「大学病院スタート自由設計プログラム」を新設し、研修医7名が当該プログラムを利用して、プライマリ・ケアについて研修しつつ、専門研修にシームレスにつながる研修を受講している。

○ 海外における医療知識及び技術等の修得推進

在外派遣研修事業支援において、外傷診療体制の充実を図るため、救急科・集中治療部の医師等9名を米国に派遣しているほか、最先端の糖尿病治療を多職種で学び、その成果を還元するため、糖尿病・代謝・内分泌内科の医師等9名をデンマークに派遣しているなど、海外の先進的な医療、研究、教育、病院運営等に関する幅広い知識と技術の修得を推進している。

○ 国際水準の臨床研究実施体制の整備

国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う臨床研究中核病院の承認に向けて、学長の下に、附属病院の医療安全及び臨床研究を監査する病院監査委員会を設置するなど、学長のガバナンス強化及び臨床研究に関する外部監査体制の機能強化に取り組んだ結果、平成29年3月に国立大学病院では6施設目となる臨床研究中核病院に承認されている。

(診療面)

○ 肺循環障害に対する多職種連携医療体制の構築

「肺高血圧症センター」を設置し、複数診療科・多職種による包括的横断的な管理が必要な肺高血圧症をはじめとした肺循環障害に対する最先端の医療を提供するなど、多職種連携による高質な医療提供体制を構築している。

(運営面)

○ ICT活用による医療関連機関間の情報共有と患者の疾病管理の質向上

千葉県医療情報連携システム整備促進事業補助金を得て、パーソナル・ヘルス・レコードシステム「SHACHI (Social Health Assist CHIba)」を開発整備し、患者登録を開始したことにより、医療関連機関間の情報共有によるスムーズな紹介・逆紹介を実現するとともに、患者自身が血圧や体重等のバイタルデータを日々記録できる機能を備えるなど、疾病管理の質を向上させている。